千刈田神楽の紹介

千刈田神楽は、１７９０年村人有志が権現様に神楽の奉敬を志し、早池峰神楽「大償流神楽」の弟子となり伝授し、創建されたものです。村人たちの神事、祝い事等に広く勧めたといわれています。

千刈田神楽は、南部家の守り神として安置信仰されていた熊野権現を、家臣内堀四郎兵エが石鳥谷町の新堀地区統治のために着任する際、南部家から賜り日夜奉拝し、その後、千刈田家初代「治右エ門」宅に御宮を新造させ、家内安全・五穀豊穣の守り神として安置し、村人たちが権現様に神楽を奉敬したものがはじまりといわれています。

新堀小学校では、特設神楽クラブをはじめ、地域の民族芸能として伝承活動が行われています。

特設神楽クラブは、千刈田神楽を伝承したいという強い想いがある子どもたちが、月に２～３回保存会の方々から指導を受けています。

演目のひとつである「膳舞（ぜんまい）」は、両手の手のひらにお膳を乗せ、ゆっくりと大きく、あるいは速く激しく舞い、いくら振り回しても手のひらのお膳が落ちないという修験者の神通力を現した舞です。

また、特設神楽クラブで舞う伝承の神楽とは異なり、新堀小学校では「神楽（しんがく）」と呼ばれる舞に全校で取り組んでいます。

「神楽（しんがく）」は、学校の運動会や地区運動会・石鳥谷まつりのパレードなどで練習の成果を披露しています。